

A区分・C区分共通
No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和6年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	演劇	種目	児童劇
----	----	----	-----

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分
------	-----

複数申請の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	無	申請総企画数	
---------	---	--------	--

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	
--------------------	--

芸術文化団体の概要

ふりがな	げきだんかぜのこちゅうぶ		団体ウェブサイトURL
制作団体名	劇団風の子中部		
代表者職・氏名	代表取締役 西川典之		
制作団体所在地	〒 500-8241	最寄り駅(バス停)	名鉄名古屋本線 茶所駅
	岐阜市領下21番地16		
電話番号	058-215-7780		
ふりがな	げきだんかぜのこちゅうぶ		団体ウェブサイトURL
公演団体名	劇団風の子中部		https://www.kazenokotyubu.com
代表者職・氏名	代表取締役 西川典之		
公演団体所在地	〒 500-8241	最寄り駅(バス停)	名鉄名古屋本線 茶所駅
	岐阜市領下21番地16		
制作団体 設立年月	2010年4月		
制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等	
	代表取締役 西川典之 事務局長 田島千穂 創造部長 榎田真理子	【創造部】榎田真理子、大熊勝利、榎田大介、井野口祥平、川尻晴菜、古山かな恵、神田純平、橋本弥侑、高原真理子、坂田如 【制作部】西川典之、田島千穂、石井貴大、阪井大輝、小寺真由子、関由美	
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	他の業務と兼任の担当者を置く	本事業担当者名	西川典之
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者名	田島千穂

本申請にかかる連絡先 (メールアドレス)	kazenokotoukai@mtj.biglobe.ne.jp
-------------------------	--

制作団体沿革	<p>1950年、劇団風の子が東京下北沢で創立。 1987年、劇団風の子の地方事務所として愛知県一宮市に東海事務所を開設。 1992年、事務所を岐阜市に移転し、2009年まで普及を中心とした活動を展開。 2010年4月、劇団風の子から運営独立し「劇団風の子中部」を岐阜市に設立。 2018年4月、株式会社劇団風の子中部として法人独立し、現在に至る。</p>	
学校等における 公演実績	<p>【2018年度公演実績】 「ギャング・エイジ」:79日 102ステージ 全作品公演 合計254日 294ステージ 【2019年度公演実績】 「ギャング・エイジ」:106日 128ステージ 全作品公演 合計275日 307ステージ 【2020年度公演実績】 「ギャング・エイジ」:45日 73ステージ 全作品公演 合計 181日 268ステージ 【2021年度公演実績】 「ギャング・エイジ」:84日 131ステージ 全作品公演 合計 262日 389ステージ 【2022年度公演実績】 「ギャング・エイジ」:90日 132ステージ 全作品公演 合計 321日 457ステージ 【2023年度実施校並びに2学期以降実施予定校】 「ギャング・エイジ」:100日 122ステージ 全作品公演 合計 281日 349ステージ</p>	
特別支援学校等における公演実績	<p>【静岡県】静岡南部特別支援学校、静岡中央特別支援学校、袋井特別支援学校 【愛知県】岡崎市みあい特別支援学校 【岡山県】岡山県健康の森学園特別支援学校 【富山県】富山県立高志支援学校 【岐阜県】岐阜県立関特別支援学校</p> <p>ほか公演実績有</p>	
参考資料の有無	申請する演目のWEB公開資料	有
	※公開資料有の場合URL	https://youtu.be/Q_fcM9xUNUE
	※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード	ID: PW:

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 劇団風の子中部】

対象	小学生(低学年)	○		
	小学生(中学年)	○		
	小学生(高学年)	○		
	中学生	○		
企画名	劇団風の子中部「ギャング・エイジ」公演			
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	「ギャング・エイジ」 原作:阿部夏丸 脚本:いずみ凜 演出:中島研 身体表現:若林こうじ 音楽・効果:曲尾友克			公演時間 75 分
著作権、上演権利等の 許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否	該当なし	該当コンテンツ名	
	該当事項がある場合	権利者名	許諾確認状況	
演目概要	<p>(あらすじ) 主人公エイジは、元気で人気な小学四年生。お笑い好きのタカヒロや優等生のミサキ、虫が好きになちよつと変わったココロ、ユニークな同級生たちと毎日を過ごしていた。そんなある日、偶然が重なり、突然エイジは「らんぼうもの」のレッテルを貼られてしまう。どうしていいかわからないエイジは学校を飛び出し、中学生のイサオと出会う。イサオは「ギャング」という言葉をエイジに教えてくれた。「弱い者いじめはダメだ。迷惑たれながす奴もだめだ。カッコいいギャングになるんだ」と語るイサオ。棒に当てはめられるなら、いっそ自分からその棒を飛び出してしまったら…？エイジは決めた。目指すは(カッコいいギャング！)タカヒロがピンチの事態に、ココロの機転とエイジの行動力で乗り切り、それをきっかけに、ココロのでっかい絵を描きたいという夢を知る二人。ココロの夢を叶えるために、カッコいいギャングになるために、三人の作戦会議が始まった。</p> <p>(みどころ) 5人の演者が舞台空間を縦横無尽に駆け回るエネルギッシュな表現。ブルースハーブ(ハモニカ)の生演奏と音響効果による迫力あるサウンド。カラフルな棒を使った舞台表現。そして、原作の世界観を踏襲しながら、現代の“リアルな子どもたち”の心情が吐露されたような台詞の数々に、共感する子どもたちの感想も多数寄せられています。</p> <p>(実績・受賞歴) 令和4年度文化芸術による子ども育成推進事業(巡回公演事業)採択 令和5年度文化芸術による子ども育成推進事業(巡回公演事業)採択 令和4年度厚生労働省社会保障審議会特別推薦児童福祉文化財 令和5年度児童福祉文化賞受賞</p>			
演目選択理由	<p>*この事業の目的のひとつは「コミュニケーション能力の育成」と認識しています。この劇の主人公エイジを取り巻く子どもたちは、ココロをいじめるトオル、親友のタカヒロ、正義感の強いミサキと様々です。そんな子どもたちが、突然引き起こされた事件に巻き込まれながら、反発し、共感し、妥協しながらも自己決定したことを表現し、さらに新しい関係へと発展させていく子どもたちのドラマが描かれています。ココロは人を避け、自分の世界に閉じこもっている子どもでしたが、エイジやタカヒロの友情で心を開き、共に行動することで共感を生み出し、ココロ自身が彼女の中に潜んでいた、発信する力を発見していきます。5人の子ども群像との出会いを通してコミュニケーション能力の育成を図りたいと思います。</p> <p>*さらに、この事業の目的の一つ「発想力の育成」は、体験や模倣の中から鍛えられます。主人公のエイジは、ココロの心の中のざわめきを聞いて、だったら「こうしてみない」とか、たくさんの着想をココロと共有しようと訴えます。エイジやタカヒロの面白い発想力がココロの心を大きく動かしていきます。3人の織り成すドラマが見ている子どもたちを大きく刺激することは間違いありません。これらの事で、舞台芸術への興味と、将来の芸術家の育成や芸術鑑賞能力の向上につながっていくと考えます。</p>			
児童・生徒の共演、参加又は体験の形態	[劇中のエンディングシーン] 児童5〜30名程度出演参加。主人公たち出演者とともに舞台上で、簡単な振り付けに合わせテーマソングを歌い踊ります。			
出演者	榎田大介 井野口祥平 神田純平 高原真理子 坂田如			
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む	出演者: 5 名	運搬	積載量: 1 t	
	スタッフ: 1 名		車長: 6.99 m	
	合計: 6 名		台数: 1 台	

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み	無	前日仕込み所要時間		時間程度	
	到着	仕込み	上演	内休憩	撤去	退出
	7:00	7:00~11:00	13:30~14:45	無	15:00~16:30	16時50分

※本公演時間の目安は、午後、概ね2時間分程度です。

本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)	6月	7月	8月	9月	10月	
	5日	0日	0日	5日	9日	
	11月	12月	1月	計	29日	
		10日	0日			

※平日の実施可能日数目安をご記載ください。

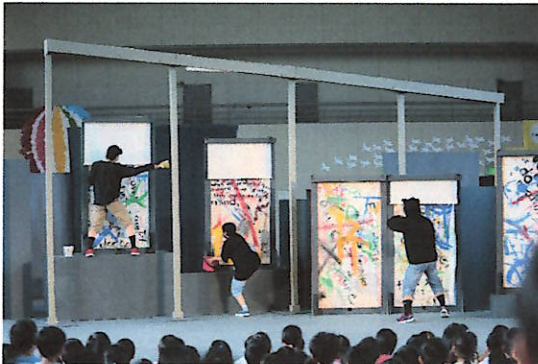
児童・生徒の 参加可能人数	本公演	共演人数目安	5~30名(1クラス程度)
		鑑賞人数目安	200~400名



公演に係るビジュアル
ルイメー
(舞台の規模や演出が
わかる写真)



※採択決定後、図
面等の提出をお願い
します。



【公演団体名

劇団風の子中部

】

児童・生徒の 参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	30名
<p>ワークショップ 実施形態及び内容</p>	<p>【事前ワークショップ】心と身体の解放を目的とした“あそび”のワークショップを実施後、実際に出演する際の歌と振り付けの練習。その後、出演グループごとに分かれ、歌の途中で叫ぶ「こどもの主張」(例「夏休みをもっと長くしてほしい!」「宿題を減らしてほしい!」「戦争はいやだ!」等)についてディスカッション。その日決めた主張(本番までに変更してもOK)を取入れ、最後に歌と振付に合わせて発表してもらいます。 【本番当日まで】覚えた歌と振り付けの練習。「こどもの主張」について変更したい等あれば話し合っておく。 【当日リハーサル】実際に出演する児童、先生と打合せ、リハーサルを行います。</p> 		
<p>ワークショップの ねらい</p>	<p>思春期にさしかかる、まさにギャングエイジ世代の子どもたちは、自我の目覚めとともに他者からの目を意識し始めます。そのことにより人前に立つ、喋る、表現する、演じることに相当なプレッシャーを感じる子どももいます。そこで演劇とは本来、PLAY＝演劇＝遊びであり、ごっこ遊びやものまねの延長であること、今回の舞台表現は「まずは、思い切り体を動かす気持ちよさを体感してほしい」と伝えるためのワークショップにしたいと考えます。 コロナ禍で、自分の思い、考えを人に伝える、表現する機会が少なくなっている子どもたちに、歌詞の中の“こどもだって悩むのさ、だけど言っちゃえ!”に続く「こどもの主張」という形式で、自分たちが抱えている思いを、仲間と一緒に叫ぶという経験をしてほしいと考えます。</p>		
<p>その他ワークショップに 関する特記事項等</p>	<p>当日の出演児童は舞台上で歌い踊る演出上、30名程度が妥当なのですが、ワークショップに関しては多少多くても対応可能です。 例:1学年2クラス60名がワークショップ参加。その中で各クラスから舞台上上がる児童と、舞台脇特設スペースで歌だけ歌う児童に分かれて参加など。</p>		

本事業への申請理由

【公演団体名

劇団風の子中部

】

本事業に対する
取り組み姿勢、および
効果的かつ円滑に実施
するための工夫

①本事業に対する取り組み姿勢

日本中の児童青少年が、地域格差や各家庭の経済格差等で差別されることなく、平等に文化芸術の機会を得ることの出来る芸術鑑賞教室というシステムは世界的に見て稀有な存在です。しかし、近年、少子化の加速、子どもの貧困(要保護・準要保護)家庭の増加による観劇料の徴収不可等で、学校単独での鑑賞機会が激減しています。そこに新型コロナウイルス感染症による行事見直しが加わり、いまや芸術鑑賞行事そのものの開催が難しい状況にあると実感しています。

劇団も経費を抑えての公演形態を探りつつ、消毒の徹底やソーシャルディスタンスの確保を目的としたステージ数の追加等の対策を講じてきました。感染症に関しては徐々に緩和傾向にあるとはいえ、以前からの課題(少子化等)が立ちはだかる現状の中で子どもたちへの鑑賞機会を創り続けることの困難を感じています。

本事業は、このような状況を打ち破る大きな力になると確信します。子どもにとって文化芸術、演劇は生きる力です。当劇団も、子どもたちの発想力、想像力、コミュニケーション能力の育成を図り、将来の芸術家の育成や芸術鑑賞能力の向上につなげることを目的として、本事業に取り組むたいと考えます。本事業の推進力は子どもたちを取り巻く状況を変革していく力になると確信しています。

◇子どもたちにとって文化芸術を鑑賞することは、娯楽的な要素を持つものではなく、子どもの成長発達には欠かせない体験であることを広く普及し、芸術鑑賞能力の向上を図りたいと考えます。

◇テレビ・インターネット等による子どもの成長発達に及ぼす影響を考えた時、子どもが目の前で繰り広げられる生の舞台芸術に触れる機会を持つことの重要な意味を、地域の方たちと共に考え、芸術鑑賞の意味を深めていきたいと思ひます。

◇芸術家の育成事業も担っていきたい。この体験は本物の舞台芸術に触れることによって、子どもの自己表現能力を養成し、次なる芸術家を育てる礎になるような機会として創っていききたいです。

以上の目的をもって、その実現のために本事業に申請します。

②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫

1. 採択された学校には迅速に対応し、次年度の学校行事のスケジュール調整に間に合わせて、ワークショップ、本公演の日程を調整し、スムーズな学校運営ができるよう配慮します。
2. 令和6年度4月には、新担当教諭に迅速に連絡をして、これまでの経緯とこれからの進め方の再確認をしっかりと行います。
3. 打合せのため、学校に直接伺い、確認事項を再度確認し、事前のワークショップを行い、本公演をスムーズに進行できるよう、打ち合わせをしっかりとやりたいと考えています。
4. 子どもたちが、緊張感で表現できなくなるような事にならないよう、具体的に子どもたちの心と体を解放できるようなワークショップを考えています。これまでの実績として、2000年より、多くの学校で学芸会の指導をしてきたスキルを生かして臨みたいと思ひます。年間40日以上学芸会指導、教職員対象の研修、教育学部の学生向けのワークショップなど実施してきた経験を最大限生かしていきたいと考えます。子どもたちが、ドキドキワクワクするような取り組みを生み出します。
5. 子どもたちへの言葉がけ・・・否定的な表現は使わない。肯定的な言葉がけに徹して、ワークショップ・本公演の環境を子どもたちが安心して自己表現できるように配慮します。
6. 公演当日は、ワークショップ、本公演以外の場面でも、子どもたちとのコミュニケーションが図れるよう、体育館は開放的な空間にし(もちろん安全に考慮し)、本番への昂揚感を高めます。
7. リハーサルは短い時間の中で、集中力と適度な緊張感を促し、かつ表現すること、舞台に立つことの楽しさを追求しながら、本番に向かっていきます。